

漁業資源・漁場調査と情報提供事業

安江尚孝・中地良樹・原田慈雄・御所豊穂・土居内 龍・武田保幸（資源海洋部）

1 目的

我が国周辺海域における漁場環境のモニタリングを行うとともに、漁業資源の適切な保存および合理的・持続的な利用を図るための資源診断・動向予測・最適管理手法の検討に必要な基礎資料を整備する。また、調査結果をもとに、関係漁業者・団体に情報提供を行う。

2 方法

図1に示す主な調査漁協で、生物情報収集調査（マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マサバ、ゴマサバ、マアジ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、サワラ、ムロアジ類、タチウオ、イサキ）を行うとともに、海洋観測調査（卵稚仔調査含む）を実施した。

3 結果

魚種・系群ごとに（独）水産研究所・都道府県の水産試験研究機関で組織された研究グループにより資源評価が行われ、水産庁・（独）水産総合研究センターにより公表された。和歌山県に関連する情報については、漁海況情報やカタクチイワシ産卵情報などを通じて、県下の関係漁業者・団体に提供された。和歌山県に関する調査結果は次のとおりである。

1) マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マサバ、ゴマサバ、マアジ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、サワラ、ムロアジ類、タチウオおよびイサキについて、漁獲統計と生物測定データなどが継続収集された。

2) 海洋観測データが継続収集された。結果は本誌の資料に掲げた。

3) 調査結果は、水産総合研究センター、都道府県水産試験研究機関および社団法人漁業情報サービスセンターで構成するネットワークシステム（FRESCO）によりオンラインデータベース化された。

4) ムロアジ類、タチウオおよびイサキは、資源動向についてとりまとめ、中央水産研究所に報告した。

5) 関係会議

平成23年度中央ブロック資源評価会議、平成23年度瀬戸内海ブロック資源評価会議、第42回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議、平成23年度太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議、中央ブロック卵・稚仔、プランクトン調査研究担当協議会、平成23年度中央ブロック資源・海洋研究会

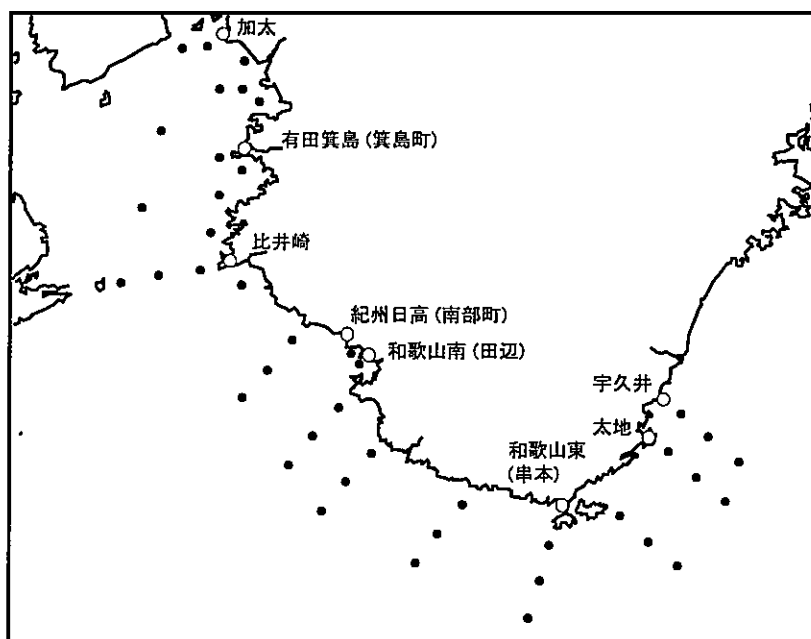


図1 主な調査市場 (○)と海洋観測調査定点 (●)